

Gakuvo

日本財団学生ボランティアセンター 報告書



Gakuvo

とは・・・？

日本財団学生ボランティアセンター（通称 Gakuvo）は、全国規模で学生のボランティア活動を支援する希少な団体です。

様々な社会課題が露呈してきている昨今、市民活動の必要性は日に日に高まってきています。これからの社会を担っていく若者が、学生のうちからボランティア活動に取り組むことで、社会課題を「他人事」ではなく「自分事」として捉え、課題解決のために行動する人材を育成していきます。

Gakuvo 理念

- 学生のボランティア活動を支援します。
- 学生ボランティアのスキルアップを支援します。
- 自分の携わったボランティア体験を、広く社会に伝えていく力の育成を目指します。
- ボランティア活動をととして、次世代を担う人材を育成します。
- 20年後の社会を見据えた活動を展開し、時代の「一歩先」を目指します。



> 代表挨拶

当年度は、発足7年にして公益財団法人化（認可取得2017年6月1日）をした、新たな飛躍の年となりました

夢を描くことが最大の社会貢献となる若い学生の力を活かすことを念頭に、学生の様々なボランティア活動の支援・促進を実施することができたと確信しております。

ここに至りましたのも、当センターに対する皆様からのご理解とご協力があったからこそと、心より感謝申し上げます。

今後より一層、全国各地の大学と連携構築を進め、教育的観点からも学生のボランティア活動の支援に注力してまいります。また、学生の志に耳を傾け、彼らの学び・成長を支えて参る所存です。

これまで7年間の温かいご支援、ご協力に改めて感謝申し上げますと共に、今後とも引き続きご理解ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター
代表理事（会長）小宮山 宏

> 組織図



Gakuvo

日本財団学生ボランティアセンター 報告書

REPORT 2017

目 次 - CONTENTS -

> Gakuvo とは・・・？ /Gakuvo 理念	01	> セミナー / シンポジウム事業	27
> 代表挨拶 / 組織図	02	・ PR カコンテスト「V-1」	29
> Gakuvo Style Fund 事業	05	・ ボランティア・シンポジウム	30
> 大学等連携事業	09	> インターンプログラム	31
・ 聖心女子大学との連携事業	11	> 学生委員会	35
・ 法政大学との連携事業	13	> インターン及び学生委員紹介	35
・ 連携大学のデータ	15	> 全国学生 1 万人 ～ボランティアに関する意識調査 2017～	37
・ 協定締結までのあれこれ	16	> 学生ボランティア派遣データ	38
> 学生ボランティア派遣事業	17	> 年 表	39
・ チーム「ながつ」プロジェクト福島	19		
・ グローバル・リーダーシップ・プログラム	21		
・ プラチナ未来人財育成塾	23		
・ チーム「ながつ」プロジェクト災害	25		

Gakuvo Style Fund >

単に誰かの役に立つだけではなく、活動を通して成長し、社会へはばたく人材を育成するため、ボランティアを行う学生の団体を応援する基金。単なる資金協力に終わることなく、プレゼン審査会、活動報告会などを実施し、全国の学生ボランティア団体のネットワーク構築も併せて図る。

Gakuvo Style とは

一般のボランティアとは異なり、ボランティア活動を通してボランティア自身が、日常生活の中では意識していなかった社会問題に気づき、その解決を模索し、行動に移すことによってボランティア自身が成長していくプロセス、およびその成長に重きをおいたボランティアの姿を指す。もちろん、成長するだけではなく、一般のボランティア同様、社会問題を改善していくことも重要である。





Gakuvo > Style Fund

がむしゃらに取り組む。だから気づく／築くことができる

第4回 Gakuvo Style Fund では、107 団体からの応募が寄せられ、書類審査及びプレゼン審査（※ Yuru・vo は書類審査のみ）を通過した 56 団体（協力金総額 10,510,000 円）が協力団体として採択された。

教育支援、過疎地域の課題解決、防災・減災、国際交流など多岐に渡る活動分野に取り組む団体が、国内外それぞれのフィールドにおいて、2017 年 8 月から 2018 年 3 月まで活動に取り組んだ。2018 年 5 月には、活動の振り返りと共に、他団体とのネットワーク構築の場として活動報告会を実施する予定である。

Colla・vo

協力金：上限 20 万円

新たな活動展開を図るため、既存の枠組みを超えた組織とのコラボレーションを企画する学生を支援するコース

Baca・vo

協力金：上限 30 万円

活動を行う地域で発生している課題解決に、徹底的にのめり込む活動を行う学生を支援するコース

Yuru・vo

協力金：上限 10 万円

はじめの一歩を踏み出そうとする学生を支援するコース



審査委員

天田 聖
（独立行政法人国際協力機構 JICA 地球ひろば所長）
杉山 恵理子
（明治学院大学ボランティアセンター長）
谷口 浩一
（ソニーマーケティング株式会社 広報・渉外部 総括部長）
野沢 慎司
（明治学院大学 副学長）
古川 秀雄
（日本財団学生ボランティアセンター 常務理事）



※ 50 音順



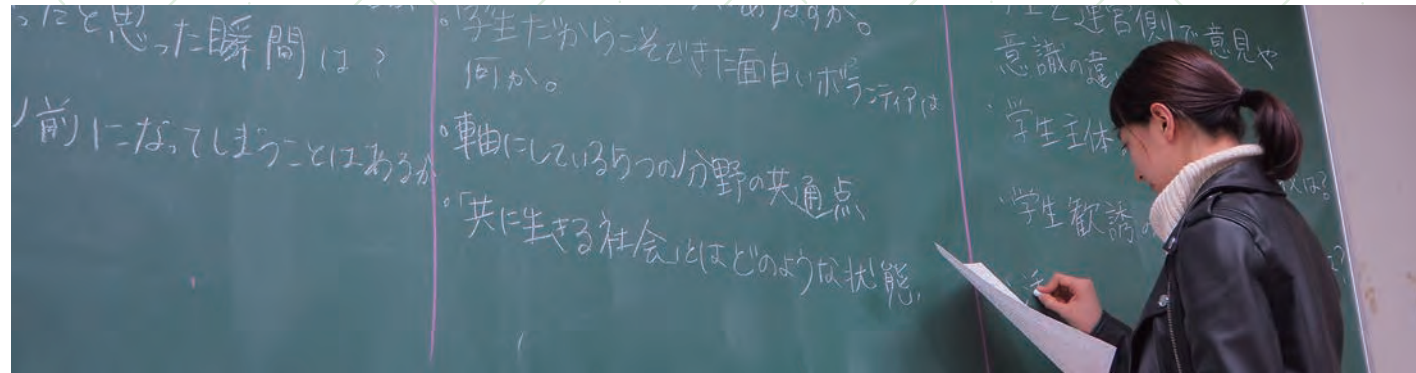
大学等連携 >

全国 82 大学と協力協定を結び、大学や、大学が位置する地域の特色を活かした活動を協働して行っている。昨今は、アクティブラーニングや教室外での学びを含めた授業や講座が注目を集めており、現場での実習を含めたプログラムを多く実施している。初めてボランティア活動に触れる学生を対象にしたものから、テーマや専門に踏み込んで、自分でプログラムを作る事業まで、幅広い層を対象としている。



> 聖心女子大学

振り返ること、改めて気づく学び



2014年度より聖心女子大学で行っている寄付講座「ボランティア体験の振り返り」。

ボランティア活動や社会貢献活動においては、活動を振り返り、更なるステップアップを図ることや、他者に活動及びその背景に存在する社会課題を伝え、広めていくといったことが重要である。

しかし、そういった機会や能力を持つことは中々難しい。そこで、本講義では自分の体験したボランティア活動を振り返る機会を持つと共に、他者に「伝える」力をスピーチ及び文章の観点から育成している。

今年度は、学生それぞれのボランティア体験スピーチや、現役新聞記者に学ぶ文章スキルといった能力の育成だけでなく、NPO等実際に現場で活動している団体職員の方にお越しいただき、リアルなお話を伺うことで、ボランティアと社会の関わりについての学びを得ることも重視した。



ゲストスピーカー



「現場サイドの取り組み～一般社団法人防災ガール～」
一般社団法人防災ガール 筒木愛美氏

「読み手がわかる、心に触れる 取材、報告の極意(2回)」
読売新聞東京本社 森田泰進氏

「災害現場における学生ボランティアの役割」
NPO 法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)
理事・事務局長 伊藤章氏





> 法政大学

益城で出会った方たちに 大学だからできること

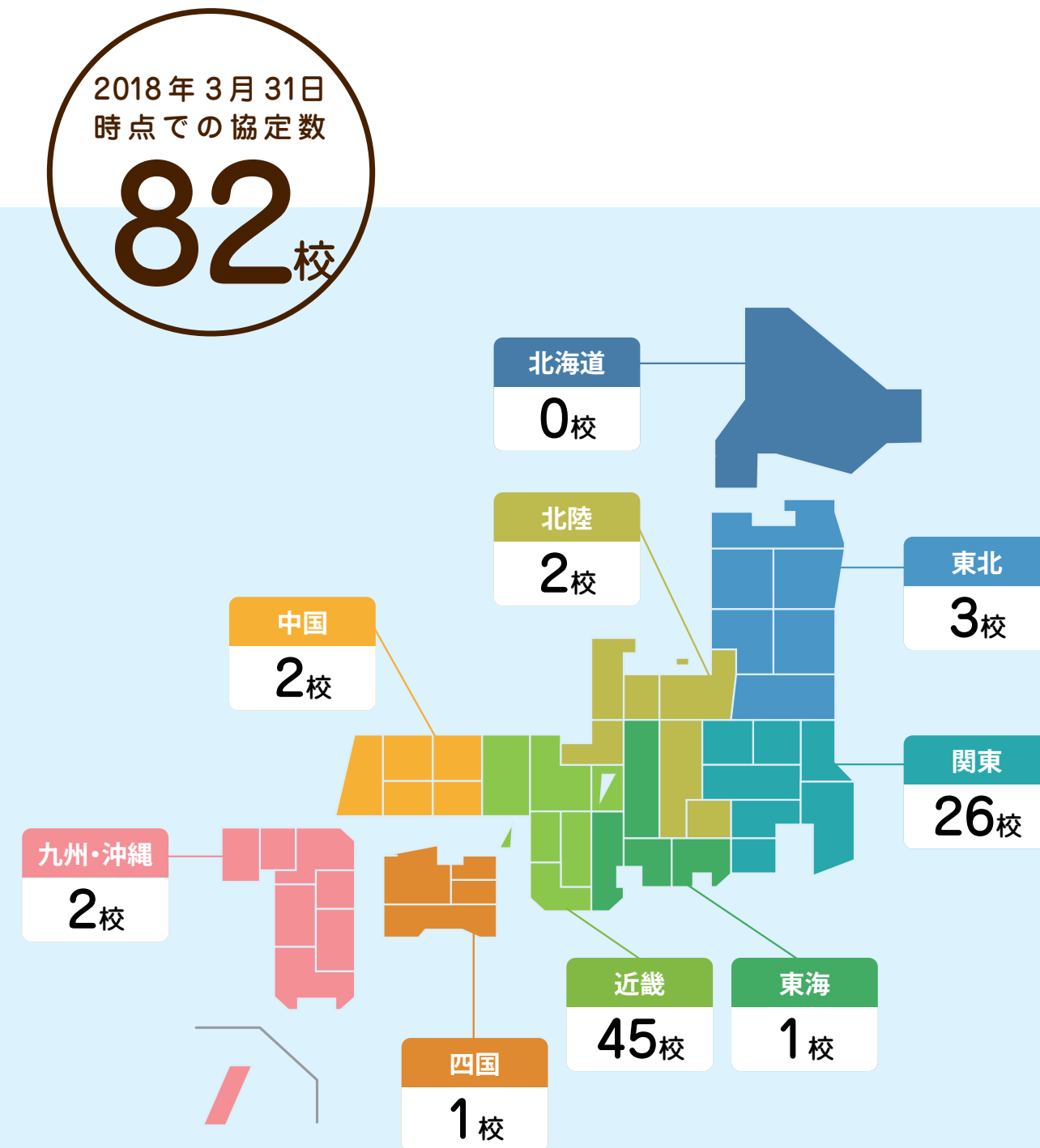
法政大学多摩ボランティアセンターに所属する学生で構成される「チームたまモン」と連携して、熊本県上益城郡益城町での活動を実施した。

熊本を3回訪問して、仮設住宅に住む子供を対象とした工作教室や移動図書館のお手伝いなどの活動を実施、熊本YMCA・熊本学園大学・益城町役場などへヒアリングをして現地の事を学び、今後の展開を考えた。

東京でも出来る事を模索して、熊本地震後に益城町で唯一工場が残った「お茶の富澤」のお茶を使用して、多摩キャンパス近くのカトウファームと協力して、「益城町を応援しなくっ茶プリン」を企画・販売した。ラベルは仮設住宅の方たちに書いてもらったものである。また、東京にて今後の活動を考える会を認定NPO法人カタリバ「ましき夢創塾」芳岡孝将氏をゲストに開催した。



> Gakuvoと大学との協力関係



> 協定までのながれ



※1 連携することでどのようなことが可能になるかを考える
 ※2 締結する部署などの調整
 ※ 各大学によって事業実施までの流れは異なる

※3 協定のため大学から Gakuvo への分担金は無い
 ※4 協定締結日は双方で決定 締結先は学長とは限らない

学生 ボランティア派遣 >

普段は「他人事」と感じてしまいがちな社会、世界で起きていることを「自分事」として捉えるため、社会課題に触れる機会を提供するプログラム。

派遣地域は国内にとどまらず、海外へも派遣を行っている。



> チーム「ながぐつ」プロジェクト福島



チーム「ながぐつ」 プロジェクト福島

ここに立って初めて「知った」「感じた」そして自分ができること



2011年に発生した東日本大震災を契機に始まったチーム「ながぐつ」プロジェクト。
現在は福島県を中心としたプログラムを実施し、現地の方が取り組む様々な取り組みのお手伝いに携わると共に、震災について学ぶプログラムを行っている。



2017年度は22回派遣（内4回は体育会派遣※）を行い、延べ1,004名の学生が活動に携わった。参加学生の内訳としては、やはり首都圏の学生が多いものの、今年度は、中国・九州・東北地方など遠方から参加する学生が増加し、様々な地域の学生に活動の機会を提供することができた。

活動内容としては、現地の方が取り組む農業プロジェクトや地域活性を目的としたイベント等に携わった。また、震災当時小学生、中学生だった学生が増加してきたことを受け、「震災を学ぶ、災害を考える」という視点も重視し、視察や現地の方にお話を伺うことをプログラムに必ず組み込んだ。

※ 早稲田大学米式蹴球部・明治大学アメリカンフットボール部が年2回ずつ活動を行っている。

**明治大学
アメリカンフットボール部**
派遣回数：2回
派遣人数：141名



公募型派遣
派遣回数：18回
派遣人数：515名



早稲田大学 米式蹴球部
派遣回数：2回
派遣人数：348名





世界にふれて、私の世界が広がっていく



2017 年度には、インドネシア ジャカルタとジョグジャカルタで1回ずつ、計2回のプログラムを、現地受入団体 Alternative Project と協働で開催し、延べ18名の学生が参加をした。2つのプログラムの共通した目的は、自分で考え行動する「主体性」、異なるバックグラウンドをもつ参加者と協働することによって得られる「多様性」、共同生活や一つのことを共に作り上げることによって鍛えられる「伝える英語」を学ぶこと、さらに、世界規模の社会課題を間近で見て、それに向き合うきっかけとすること。2週間のプログラム期間中は、インドネシアで募集をしたインドネシア人メンバーを含めた全員で同じ場所に宿泊をし、共同生活を送りながら活動した。



Social Entrepreneurship

前半はインドネシア・日本の宗教や価値観、社会起業家の取り組みの現状を学び、インドネシア人と日本人合同チームで気になる社会課題を解決するビジネスモデルを考え、発表するワークショップを実施。

後半は、インドネシアを中心に活躍する若手社会起業家を訪問し、活動内容等についてインタビューを行い、取材内容を動画にまとめ、英語でのプレゼンを行った。新興国のエネルギーと課題、若手社会起業家の想いを肌で感じ、今後自分が社会でどのような役割を担えるかを考える2週間となった。



Culture&Education

前半はインドネシア・日本の宗教や多様性、世界遺産ボルブドゥール寺院の歴史と地域にもたらした影響、ホームステイを通して村の暮らしや文化を学んだ。

後半は、貧困層の子どもをサポートしている方から、現状や支援などについて話を聴かせていただいた後、子どもたちに向けて「トレランス」をテーマにしたワークショップの企画・運営を行った。このテーマを小さな子どもたちにどう伝えるか、インドネシア人と日本人合同チームで知恵を出し合い、慣れない英語での議論に苦戦しながらも、プログラムを作り上げた。



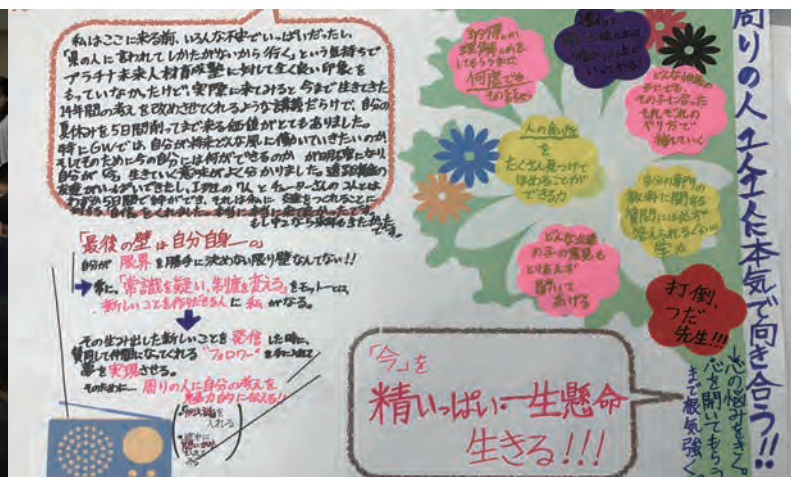


プラチナ 未来人財育成塾

未来を考えることを手伝う 未来を生きる力を磨く

プラチナ構想ネットワーク主催「プラチナ未来人財育成塾」において、参加者の中学生と年齢が近い大学生だからこそつくれる関係性を活用して、学びをサポートする学生チューターの派遣を行っている。学生チューターは、Gakuvo 事業参加者や協働事業実施大学の学生をはじめ、関心がある学生を全国から広く募っており、チューター事前研修も実施している。

今年度は、プラチナ構想ネットワーク主催「プラチナ未来人財育成塾@柏」において、中学生の学びをサポートするためのワークを実施し、個別相談にも応える学生チューターの派遣を行った。本年度の大学生 23 名は、約半数が首都圏外からの参加で、東北・東海・近畿・九州・沖縄の大学に在籍する学生であった。チューター事前研修では、塾当日のグループワークに向けてファシリテーション技法や心構えを学び、本年度から導入されたシニアスタッフと協力して、ワークを実施した。





チーム「ながぐつ」 プロジェクト災害

力だけじゃない。元気、希望をとどけるんだ



毎年何かしらの自然災害に見舞われる災害大国・日本。
緊急支援として学生を被災地へ派遣し、復旧復興に携わることはもちろん、学生ならではの「若さ・元気・パワー」を届けることによって、目に見えない形の支援を届けることも大切に行っている。



水害が様々な地域で発生した2017年。Gakuvoでは、日本財団やGakuvo東北と連携し、7月に発生した九州北部豪雨被災地（福岡県朝倉市）及び秋田県豪雨災害被災地（秋田県大仙市）へ学生ボランティアを派遣。被災した家屋内の泥かきや家財搬出、整理等に携わらせていただいた。
参加した学生からは「報道を見る限りでは既に復旧していると思っていたが、現地を訪れて被災地の一部しか見れていなかったと気づいた。」「被災地の方々はとても前向きに頑張っていたので、逆に私たちが元気をもらった。」といった声が聞かれた。



セミナー／シンポジウム >

学生ボランティアの活動のレベルアップを目指し、活動の発表やネットワークづくりを実施。

発信力・PR力向上を目指すコンテストV-1、災害時、迅速に活動を行える学生ボランティアを育てる災害ボランティア養成セミナー、大学での活動の発表と交流の場であるボランティアシンポジウムなどを開催。



> きっかけラボ ～7年目の福島へ～



伝える力を学びあう 深く考えるため 広く展開させるため



学生団体を対象とした動画コンテストであり、2010年から継続している事業である。学生が自分の活動をPR・発信する重要性に気づき、メディアを問わず活動を発信し続けていく動機付けとなり、学生ボランティア団体のPR力・発信力の向上につなげるために開催している。

2017年12月に募集を開始、2月23日をエントリー締切とした。3月5日に審査会を行い、グランプリ該当団体は無しとしたが、成長性がある団体としてIUYLを審査員奨励賞とした。Gakuvoトップページにて期間を限定して動画を公開した。

- 審査員：鎌仲ひとみ氏、小鹿猛志氏、谷村一成氏
- 学生限定トレーニングを2回実施した。

企画広報編

日 時：2018年2月8日(木)14:00～17:00
講 師：谷村一成氏（中央大学変人学部 学部長）
参加者：25名

映像入門編

日 時：2018年2月14日(水)14:00～17:00
講 師：小鹿猛志氏（若羽メディアパーティー副代表）
参加者：12名

Gakuvo 連携大学の学生が、大学の地域・専門を超えて、主体的に学び・考え・行動する力を鍛えるために実施。

2017年度は2月10日、11日の2日間に渡り、東北から九州まで計14大学・団体の17グループ55名が参加。横尾俊成氏（グリーンバード代表、港区区議会議員）による「学生ボランティアのためのプレゼン塾」、森田泰進氏（読売新聞東京本社）による「読み手がわかる、心に触れる レポート執筆の極意」という2つのトレーニングを経て、発表を行い、お互いの活動へのフィードバックを行った。



インターンプログラム >

毎年、首都圏の様々な大学から、約 10 名の学生インターンが集まり、4 月から翌年 3 月までの一年間活動。Gakuvo の事業運営のサポートはもちろん、インターン自身が独自の企画を一から作り上げることを通じて、成長をしていく。



> インターンミーティング





> インターンプログラム

自分のアタマで考え抜く どうすればボランティアが広がるか

本年度は、5名の学生が活動した。2018年4月に開始したのは3名、同年5月に開始したのは2名であった。Gakuvoの事業として運営補助を行ったのはGakuvo Style Fund 活動報告会・プレゼン審査会・PR力コンテストV-1などだったが、自主的に以下の4つの企画を立案・運営を行った。

- 「おいでよ都会のうみ〜護波(ごみ)アートを作ろう〜」
2017年11月：東京湾の護岸でのごみ拾いとごみアート制作。
- 「ながぐつを履いた学生の会」
2018年1月12日：チーム「ながぐつ」プロジェクト参加学生などが経験を次に活かすためのワークショップ
- 「ながぐつを履いた学生の会 vol.2」
2018年3月22日：1月に行った会を進化・深化させたワークショップ
- 「ふくしま、いただきます！〜知らないなんてモッタイナイ！福島の魅力〜」
2018年3月26日：福島県の食をテーマに試食や福島で活動する学生のトーク





> 学生委員会

Gakuvo の事業運営に学生の様々な意見を取り入れる目的で年 4 回実施。今年度は学生ボランティアの事情に詳しい学生団体の代表や地域の大学ボランティアセンターの学生スタッフなど 6 名が議論を交わした。

本年度の学生委員は 5 月 23 日の理事会で選任され、6 月 18 日の第 1 回を皮切りに、4 回の委員会を実施した。Gakuvo の事業を知るために Gakuvo Style Fund プレゼン審査会にも 3 名の委員が参加した。

3 月 6 日の Gakuvo 第 12 回理事会において、学生委員会としては初の報告書を提出した。内容には開催概要はもちろん、事業に対する提案が含まれていた。事業ごとへ学生目線での評価できる点や今後改善をして欲しい点がまとめられているものであった。また、1 年間を通じて、委員同士や、委員とセンター事業参加学生との新たな繋がりも構築され、今後の展開も期待される。

インターン紹介



宮地 眞子
日本女子大学
人間社会学部 3 年

イベントの企画、立案、運営を通して、目的を達成するチームはどういうチームなのかを実践的に学ぶことができました。また、社会に問題意識を持つ全国の学生達との出会いを通して、視野が広がり、社会課題を日常的に置き換える思考力が鍛えられました。

社会への疑問をカタチにして、発信できるだけの仲間がいる場所です。自分の問題意識を具現化するために助けてくれる沢山の価値観、人と出会わせてくれました。



小野 孝彰
中央大学
文学部 3 年

物事を深く考えることができるようになりました。私は今まであまり「ボランティア」に関わる機会はありませんでしたが、インターンを通じて、普段何気なく目にしているものや、言葉に対する意識が変わりました。今後の課題は、自分たちの視点に人を巻き込んでいくことです。

自分で「正解」を作る場所です。授業で与えられた「正解」から考えを深める大学と違い、ガクボはボランティアの枠を超えて、自分の経験から新しい学びを見つける場所です。

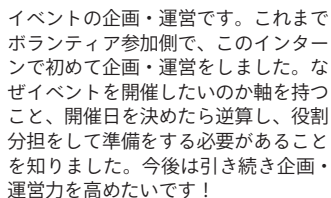
- この 1 年間でできるようになったこと & 今後の課題
- Gakuvo ってこんなところ！



鈴木 穂乃花
共立女子大学
家政学部 2 年

この 1 年間は私の人生で最も多くの人と出会い、関わりました。様々な活動をする学生の姿を間近で見て、刺激を受け、視野が広がり、広い視野で物事を捉えることが出来るようになったと思います。今後も、さらにもっと多角的な視野を持つことができるようになることが私の課題です。

Style fund や自分たちの企画でたくさんの「繋がり」が生まれたところを目にして、Gakuvo は人と人を繋げるパイプ役で、さらに繋がり場の場なのだと思います。



近藤 常葉
首都大学東京
健康福祉学部 4 年

イベントの企画・運営です。これまでボランティア参加側で、このインターンで初めて企画・運営をしました。なぜイベントを開催したいのか軸を持つこと、開催日を決めたら逆算し、役割分担をして準備をする必要があることを知りました。今後は引き続き企画・運営力を高めたいです！

思いを持って自由に、多様なボランティアをする学生を応援しているところです！また、インターンを通してボランティアに関わる多くの人に出会い、視野が広がりました。

多様性の大切さが感じられました。まず最初の難関、「予定が合わない!!」前まで、「向き合う時間＝やる気」と考えていました。でもインターン企画は、0 ベース。それぞれが外に出て、多角的な視野や豊かな感性を磨くことで、相互の作用をもたらしていることが実感できました。

活動したい学生がしたい分だけ、活動できる場所。あと、繋がる場所。干渉はほぼなしだからこそ責任も成果も大きいし、仲間との達成感疲労と共に想像を超えてこ！



永田 久実
明治学院大学
社会学部 3 年

「Gakuvo 事業に対して学生目線で意見を言う」という学生委員会の目的を常に意識し、話し合う内容を考えたことです。また、話し合う際には様々な人のニーズを考えて意見を出しました！

少しでも関心があれば、行動という一歩を踏み出してほしい！と伝えたいです。私は、ボランティアをする理由が多様で良いと思っています。一歩踏み出した先には沢山の発見がありますよ！



タパ サキ一
東洋大学大学院
国際地域学専攻
博士後期課程 3 年

学生ボランティアはチームワークと時間がとても重要だと言うことを知って、初めの一回目参加できなくても、その次時間を大事にしました。それで、チームワークの時に自分の意見が役に立つように頑張りました。

日本で様々な学生ボランティアやりたかったけど、最後の学年ですって、残念でした。しかし、将来的には私からできるボランティアがあればやってみたいです。

- 委員として意識して頑張ったこと
- ボランティアをやってみよう！学生へ一言！



今関 恭平
日本大学
生物資源科学部 4 年

どうすれば学生ボランティアの輪が全国に広まるのか？また、深まるのか？常にこの様な学生ボランティアへの問いかけを忘れずに持って、委員会に参加したこと

道端に落ちてゴミを拾うだけでもボランティア！こんなちょっとしたことでも、自分自身を変えることへの大きな 1 歩です。そして、その 1 歩が自分のやりたいことをボランティアで叶えるチャンス！さあ、1 歩前進！！



山本 賢
東北大学
文学部 2 年

Gakuvo が目指している「ボランティアの輪を広げる」ということは、自分も目指していることだったので、どうしたらボランティアを多くの人にしてみらえるかを考える機会にしよう、と思い委員会などに臨んでいました。

最初の一歩を踏み出すことが簡単なようで実は難しいですが、一歩踏み出してみると、やりがいはもちろん、活動の楽しさやたくさんの人と関わることが出来るという、ボランティアの魅力を知ることが出来ますよ！



桑山 千香子
愛知淑徳大学
交流文化学部 2 年

私が思う、ボランティア活動をする上での困りごとをアウトプットするよう工夫しました。他地域、他分野の立場でも共有することで、助け合うことができる、居場所づくりにもなりました。

ボランティアは人、地域を変えていきます。とても難しい話ではなく、入り口は人によってさまざま。入り口がさまざまであるからこそ、変えられる力を持っています。あなたもきっと変えられる。



都築 則彦
千葉大学
理学部 4 年

Gakuvo の事業に参加したことが無かったので、事業を客観的に分析することを意識しました。フィールドワークでは、そこで経験したことを抽象化し、より意義のある提案や自分の活動へ還元できるよう意識しました。

自分が本当に心に込められることに出会うには、いろんな世界に触れて、たくさん考えることが必要だと思います。そうした原体験と出会う場のひとつがボランティアだと思うので、是非勇気を持って飛び込んでみてください！！

全国学生 1万人

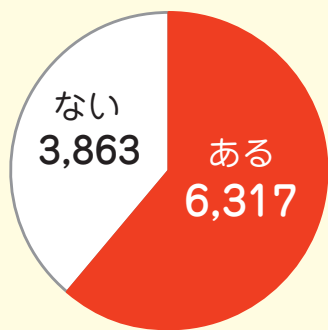
～ボランティアに関する意識調査 2017～

近年、国内外問わず、大規模災害が多発し、その多くの場所で若者によるボランティアが活躍している。そうした姿をメディアを通じて知り、苦しい状況にある人々の力になりたいとボランティアを志願する学生も少なくない。

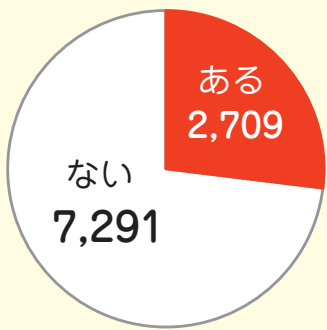
学生にとってボランティアが身近になってきている昨今、当センターでは全国の学生 1 万人を対象にボランティアに関する意識調査を実施した。ここでは一部の回答を取りあげる。

ボランティアへの意識と行動のずれ

ボランティアに興味はありますか？
(n=10000)



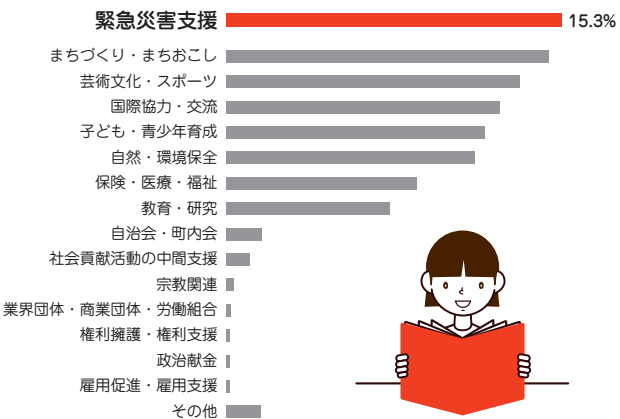
この1年間でボランティア活動に参加しましたか？
(n=10000)



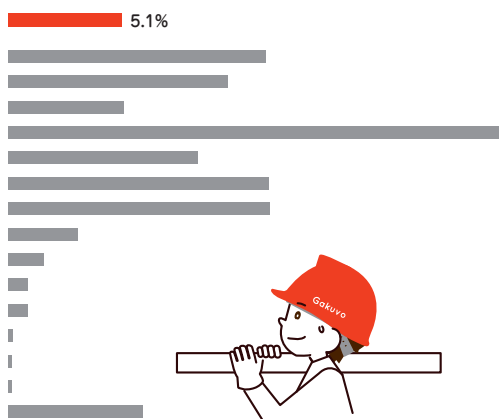
ボランティアへ興味が「ある」と答えた学生の割合は 60% を越えたが、実際にこの 1 年間でボランティア活動に参加した割合は 30% に留まっており、意識と行動にずれがみられる。

災害ボランティアへの憧れとジレンマ

● 今後ボランティア活動に参加したい興味がある分野 (n=4241)



● この1年ボランティア活動に参加した分野 (n=2709)



学生がこの 1 年間で活動した分野は、教育的分野が 30% 以上を占め、災害支援については 5% に留まっている。しかし、今後ボランティア活動に参加したい学生が最も興味を持っている分野は、男女・年齢どのカテゴリーにおいても災害支援が 1 位となっており、学生が災害ボランティアに対して憧れと危険性などから活動へと踏み出せないジレンマを抱えていることが伺える。

> 学生ボランティア派遣データ



	東日本大震災	災 害	海 外	プラチナ
2011	派遣地域：岩手県、宮城県、福島県 派遣回数：75回 派遣人数：5,214名 所属大学数：205大学			
2012	派遣地域：岩手県、宮城県、福島県 派遣回数：60回 派遣人数：1,208名 所属大学数：108大学			
2013	派遣地域：岩手県、宮城県、福島県 派遣回数：30回 派遣人数：880名 所属大学数：61大学	派遣地域①：山梨県(雪害) 派遣回数：1回 派遣人数：14名 所属大学数：5大学 派遣地域②：フィリピン共和国(台風) 派遣回数：4回 派遣人数：291名 所属大学数：34大学		
2014	派遣地域：岩手県、宮城県、福島県 派遣回数：32回 派遣人数：1,009名 所属大学数：84大学	派遣地域①：広島県(土砂災害) 派遣回数：2回 派遣人数：20名 所属大学数：9大学	派遣地域：インドネシア共和国 派遣回数：1回 派遣人数：9名 所属大学数：6大学	
2015	派遣地域：岩手県、福島県 派遣回数：24回 派遣人数：1,059名 所属大学数：57大学	派遣地域：栃木県、茨城県(水害) 派遣回数：10回 派遣人数：197名 所属大学数：59大学	派遣地域：インドネシア共和国 派遣回数：2回 派遣人数：17名 所属大学数：6大学	
2016	派遣地域：福島県 派遣回数：20回 派遣人数：919名 所属大学数：62大学	派遣地域：熊本県(地震) 派遣回数：9回 派遣人数：630名 所属大学数：82大学	派遣地域：インドネシア共和国 派遣回数：4回 派遣人数：36名 所属大学数：19大学	派遣地域：福島県 派遣回数：1回 派遣人数：21名 所属大学数：14大学
2017	派遣地域：福島県 派遣回数：22回 派遣人数：1,004名 所属大学数：76大学	派遣地域：秋田県(水害)、福岡県(水害) 派遣回数：2回 派遣人数：27名 所属大学数：15大学	派遣地域：インドネシア共和国 派遣回数：2回 派遣人数：18名 所属大学数：19大学	派遣地域：千葉県 派遣回数：1回 派遣人数：23名 所属大学数：15大学
合 計	派遣回数：263回 派遣人数：11,293名 所属大学数：295大学	派遣回数：28回 派遣人数：1,179名 所属大学数：142大学	派遣回数：9回 派遣人数：80名 所属大学数：37大学	派遣回数：2回 派遣人数：44名 所属大学数：25大学

※ 2018 年 3 月 31 日 時点

> 2017年度 Gakuvo 年表

	セミナー・シンポジウム事業／インターン事業ほか	学生ボランティア派遣事業	大学等連携事業 ※50音順
4月	・インターンキックオフミーティング実施 ・第5回評議員会 ・第9回理事会	・チーム「ながぐつ」第157陣派遣（福島県） ・インドネシアにおけるプログラムAlternative Leadership Programの活動報告会実施	・青山学院大学ボランティアセンターと「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・関西国際大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・京都産業大学と「学生ボランティア活動及び社会貢献活動の推進に関する協定書」を締結 ・熊本学園大学ボランティアセンターと「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・熊本学園大学「被災地コミュニティ支援活動」実施（1回/熊本県） ・成蹊大学ボランティア支援センターと「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・星槎大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・摂南大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・高崎健康福祉大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・津田塾大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・津田塾大学学外学修センター「ボランティア講座」実施 ・東洋大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・法政大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結
5月	・第3回Gakuvo Style Fund活動報告会開催 ・監事監査 ・第10回理事会	・チーム「ながぐつ」第158陣派遣（福島県）	・亜細亜大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・熊本学園大学「被災地コミュニティ支援活動」実施（2回/熊本県） ・聖心女子大学「陸前高田子ども教育支援ボランティア活動」実施（岩手県） ・津田塾大学学外学修センター「ボランティア講座」実施 ・東北福祉大学「まちづくり論」実習実施（宮城県）
6月	・第11回理事会 ・第6回評議員会 ・第1回学生会委員会実施	・チーム「ながぐつ」第159陣派遣（福島県） ・チーム「ながぐつ」第160陣派遣（福島県） ・チーム「ながぐつ」第161陣派遣（福島県）（早稲田大学米式蹴球部）	・熊本学園大学「被災地コミュニティ支援活動」実施（1回/熊本県） ・聖心女子大学「被災地支援プロジェクト（東日本大震災による被災地の現状と地域活性支援の実践）」実習実施（福島県） ・聖心女子大学「陸前高田子ども教育支援ボランティア活動」実施（岩手県） ・中央大学東北関連プロジェクト「コミュニティー支援活動」実施（岩手県） ・中央大学東北関連プロジェクト「スタディーツアー」実施（宮城県） ・東北福祉大学「まちづくり論」実習実施（宮城県） ・大学コンソーシアムひょうご神戸「学生ボランティア養成プログラム2017」Part1実施（兵庫県）
7月	・第4回Gakuvo Style Fundプレゼン審査会開催	・チーム「ながぐつ」第162陣派遣（福島県）（明治大学アメリカンフットボール部）	・熊本学園大学「被災地コミュニティ支援活動」実施（3回/熊本県） ・大正大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・中央大学「チームくまもと」活動実施（熊本県） ・新潟青陵大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・新潟青陵大学短期大学部と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・大学コンソーシアムひょうご神戸「学生ボランティア養成プログラム2017」Part2実施（兵庫県）
8月	・「ブラチナ未来人財育成塾@柏」開催 ・第2回学生会委員会実施 ・「きっかけラボ～7年目の福島へ～」開催	・秋田豪雨ボランティア（秋田県） ・チーム「ながぐつ」第163陣派遣（福島県）	・追手門学院大学「普代村・村づくり支援プロジェクト」実施（岩手県） ・熊本学園大学「被災地コミュニティ支援活動」実施（6回/熊本県） ・聖心女子大学「うごく七夕まつり支援活動」実施（岩手県） ・聖心女子大学「南相馬幼稚園ボランティア活動」実施（福島県） ・聖心女子大学「陸前高田子ども教育支援ボランティア活動」実施（岩手県） ・聖心女子大学「亘理学習支援ボランティア活動」実施（宮城県） ・摂南大学「教養特別講義ボランティア活動」実施（岩手県、和歌山県） ・中央大学「コミュニティー支援活動」実施（2回/岩手県） ・中央大学「スタディーツアー」実施（宮城県） ・法政大学多摩ボランティアセンター・チームたまモン第1次隊（熊本県） ・立教大学「RSL-プロジェクト・プランニング」実習実施（インドネシア）
9月		・チーム「ながぐつ」第164陣派遣（福島県） ・チーム「ながぐつ」第165陣派遣（福島県）	・岩手大学三陸復興・地域創生推進機構と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・熊本学園大学「被災地コミュニティ支援活動」実施（1回/熊本県） ・聖心女子大学「SHOC projectスタディーツアー」実施（福島県） ・大正大学ツシマヤママネコ交通事故対策活動（対馬） ・中央大学「仮設住宅における活動」実施（熊本県） ・中央大学「コミュニティー支援活動」実施（岩手県） ・法政大学多摩ボランティアセンター・チームたまモン第2次隊（熊本県）
10月		・チーム「ながぐつ」第166陣派遣（福島県） ・九州北部豪雨ボランティア第1陣派遣（福岡県） ・九州北部豪雨ボランティア第2陣派遣（福岡県） ・九州北部豪雨ボランティア第3陣派遣（福岡県） ・九州北部豪雨ボランティア第4陣派遣（福岡県）	・中央大学「現代社会分析II」実習実施（宮城県） ・徳島文理大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・立正大学社会福祉学部と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結
11月	・インターン企画「おいでよ 都会のうみ　～護波(ごみ)アートを作ろう～」 ・第3回学生会委員会実施	・チーム「ながぐつ」第167陣派遣（福島県） ・チーム「ながぐつ」第168陣派遣（福島県）	・愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター「にじいろ☆キャンブ」実施（岐阜県） ・大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻実習実施（バン格拉デシュ） ・聖心女子大学「陸前高田子ども教育支援ボランティア活動」実施（岩手県） ・福山市立大学「多文化共生の民族体験実習」実施（京都府） ・福山市立大学「多文化共生の民族体験実習」実施（京都府） ・大学コンソーシアムひょうご神戸「学生ボランティア養成プログラム2017」Part3 PV制作（兵庫県）
12月	・災害ボランティア養成セミナー「災害ボランティアとキャリア形成」@二松学舎大学	・チーム「ながぐつ」第169陣派遣（福島県） ・チーム「ながぐつ」第170陣派遣（福島県）	・聖学院大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・聖心女子大学「陸前高田子ども教育支援ボランティア活動」実施（岩手県） ・中央大学東北関連プロジェクト「岩手県宮古市でのコミュニティ支援活動」実施（岩手県） ・東北大学高度教養教育・学生支援機構と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・広島修道大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結
1月	・インターン企画「ながぐつを履いた学生の会」	・チーム「ながぐつ」第171陣派遣（福島県）	・聖心女子大学「秋葉権現川原獅子舞への学生派遣」実施（岩手県） ・中央大学「現代社会分析II」実習実施（宮城県）
2月	・PR力コンテスト「V-1」学生限定トレーニング・企画広報編 ・PR力コンテスト「V-1」学生限定トレーニング・映像入門編 ・ボランティアシンポジウム開催 ・第4回学生会委員会実施	・チーム「ながぐつ」第172陣派遣（福島県）（明治大学Tree） ・Alternative Leadership Program -Social Entrepreneurship- 実施（インドネシア） ・チーム「ながぐつ」第173陣派遣（福島県） ・チーム「ながぐつ」第174陣派遣（福島県） ・チーム「ながぐつ」第175陣派遣（福島県）（早稲田大学米式蹴球部）	・神田外語大学と「学生ボランティア活動推進に関する協定書」を締結 ・成蹊大学ボランティア支援センター「東北復興・創生プロジェクトいしのまき」実施（宮城県） ・成蹊大学ボランティア支援センター「東北復興・創生プロジェクトふくしま」実施（福島県） ・聖心女子大学「陸前高田子ども教育支援ボランティア活動」実施（岩手県） ・法政大学多摩ボランティアセンター・チームたまモン第3次隊（熊本県）
3月	・PR力コンテスト「V-1」審査員会 ・第12回理事会 ・インターン企画「ながぐつを履いた学生の会vol.2」 ・インターン企画「ふくしま、いただきます！～知らないなんて モッタイナイ！福島の魅力～」 ・インターン修了式	・Alternative Leadership Program -Culture and Education- 実施（インドネシア） ・チーム「ながぐつ」第176陣派遣（福島県）（明治大学アメリカンフットボール部） ・チーム「ながぐつ」第177陣派遣（福島県） ・チーム「ながぐつ」第178陣派遣（福島県）	・追手門学院大学「普代村・村づくり支援プロジェクト」実施（岩手県） ・聖心女子大学「南相馬幼稚園ボランティア活動」実施（福島県） ・聖心女子大学「陸前高田子ども教育支援ボランティア活動」実施（岩手県） ・千葉大学「地域を知り、地域で企画するA」実習実施（千葉県） ・中央大学東北関連プロジェクト「岩手県宮古市でのコミュニティ支援活動」実施（岩手県）